



み や ぎ - 63号 -

発行元 独立行政法人国立病院機構 宮城病院
 発行責任者 広報委員長 安藤 肇史
 〒989-2202
 宮城県巨野郡山元町高瀬字合戦原100番地
 TEL 0223-37-1131 FAX 0223-37-3316
 ホームページ <http://www.mnh.go.jp/>

令和の時代の幕開けにあたって

院長 永野 功

年度の初めにあたりご挨拶申し上げます。今年2019年は平成が4月30日で終わり、5月から令和元年が始まる節目の年です。宮城病院も今年は創立80周年の年であり、10月には記念式典が予定されています。

宮城病院が創立された昭和14年（1939年）はどんな時代であったか。一言でいえば、国の内外で紛争の絶えない戦争の時代でした。1937年の盧溝橋事件は日中戦争へ発展し、1939年5月にはノモンハン事件が始まりました。さらに世界に目を向けると、9月にナチスドイツがポーランドへ進行し、ついに第2次大戦が勃発、1941年には日本も英米との戦争に突入し全世界へと戦火は広がっていきました。傷痍軍人宮城療養所



写真前列左から
 安藤特命副院長、久永副院長、中野看護部長、
 永野院長、宗像事務部長
 写真後列左から
 大坂管理課長、岩崎企画課長、戸田副看護部長、
 飯村薬剤部長、増田経営企画室長

が創立された昭和14年はまさに日中戦争のさなかだったので。1945年以降は、一転してわが国は長い平和の時代に入りました。そして、感染症から非感染症へ疾病構造が変わり、超高齢化社会へと人口構造も大きく変わりました。宮城病院も傷痍軍人療養所から結核療養所へ変わり、その後は重症心身障害児者や病弱児の医療から脳血管疾患の医療、今では神経難病と地域医療へと時代の流れに則して変わってきました。令和の時代に医療を取り巻く環境はどう変わるのでしょうか。突発的な事態が起こる可能性もありますが、確実に言えるのは高齢化と独居化がさらに進むことです。これに対応して、医療・介護・福祉を融合させたシームレスなケアを構築しなければなりません。現場ではAI導入とIT化が進み、新たな医療職も生まれてくるでしょう。時代の変化に適応してわれわれは自ら変革を進めなければなりません。同時に歴史を振り返り先人たちの試行錯誤と経験知を鑑とすることは正しい道を選ぶ助けになるでしょう。令和の時代も、過去に学んで新しきに挑戦する宮城病院でありたいと願っています。

基本理念

『良い医療を安全に、心を込めて』

行動理念

1. 私たちは生命と人権を尊重し、患者さんを中心とした質の高いチーム医療を推進します。
2. 私たちは難病、重症心身障害など国が担うべき医療と臨床研究を推進します。
3. 私たちは地域の医療・行政機関と連携し、地域の方々の疾病予防や健康の向上に貢献します。
4. 私たちは病院の機能を十分発揮できるよう、健全な経営と経営基盤の強化に努めます。
5. 私たちは常に患者さん方から学び、向上する組織体を目指します。
6. 私たちは常に明るく働きがいのある職場づくりに努めます。

第7回 宮城病院公開講座を開催いたしました



平成31年3月9日（土）、第7回目となる宮城病院公開講座を山下地域交流センター「つばめの杜ひだまりホール」で開催いたしました。

当日は天気にも恵まれ、参加者は地域住民の皆さま、医療福祉関係者全体で約170名と多くの方々にご参加いただきました。

毎回、宮城病院公開講座では地域の皆さまへ健康増進・予防をテーマに「この地域で生き生きと暮らすために」と題して、今回は「漢方療法とお薬」に関する講演会を開催いたしました。

最初の講演では、当院内科医師、志澤先生より「地域医療と漢方療法」についての講演を行い、山元町での治療や宮城病院で実際に行っている治療症例などについてお話しされ、漢方治療に関する注意点や効能などスライドを交えながら、わかりやすく説明していただきました。

最初の講演では、当院内科医師、志澤先生より「地域医療と漢方療法」についての講演を行い、山元町での治療や宮城病院で実際に行っている治療症例などについてお話しされ、漢方治療に関する注意点や効能などスライドを交えながら、わかりやすく説明していただきました。

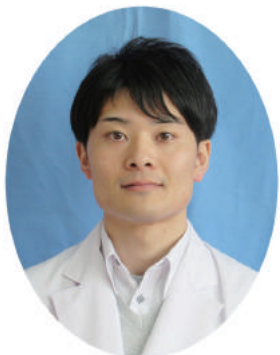


次の講演では、当院薬剤部水沼副薬剤部長より「上手なお薬の飲み方」について、お薬についての飲み方の疑問や飲み忘れについて、参加者の皆さま方にもわかりやすく説明を行っていただき、盛況に終えることができました。参加者からも全体を通して、「身近なテーマでとても良かった」「宮城病院で漢方療法を行っていることがわかった」「漢方薬の良さを知ることができた」「薬の飲み方、基本的なことがわかった」など、たくさんのご意見をいただきました。

今後も地域の皆さまに、生き生きと健康で安心して暮らせるよう宮城病院として公開講演会を開催し、町や地域の医療福祉関係機関と連携を図りながら地域医療に貢献していきたいと考えております。

最後に、この場をお借りして今回講演会開催にあたり山元町保健福祉課の皆さま方には町内広報誌などのご案内をはじめ、会場の事前準備、当日の会場設営等ご協力をいただき、盛況に終えられたこと深く感謝しております。
(管理課長 大坂 雄二)

新任医師（脳神経内科）赴任のごあいさつ



2019年4月1日より脳神経内科に着任しました。2015年に秋田大学を卒業し、群馬県内での初期・後期研修を過ごす中で2018年に宮城県に籍を移し、現在に至ります。大学時代はバレーボール、オーケストラ、山登り、温泉などに浸り、学内学外を問わず様々な人たちと交流を重ねてきました。医師として働き始めても、人間関係を大事にし、患者さんのお話を丁寧に向うことを心がけています。謙虚に幅広く学び続ける姿勢を忘れず、精一杯診させていただきます。今後どうぞよろしくお願い申し上げます。



病院見学バスツアー

平成31年3月22日（金）、今年で3回目となる看護師確保を目的とした病院見学と近隣地域の魅力を紹介する病院見学バスツアーを開催いたしました。

今年は青森、岩手、福島、宮城から26名の参加がありました。バスツアーから宮城病院を知ってもらおう！の企画で病院に向かうバスの中でゲームなどで参加者と交流をもちました。昼食の山元名物ほっき飯のあとに先輩と語る時間を設け、身近な先輩から仕事の様子を聞いたり、就職について病棟の人間関係は良好か、働いて楽しいことはあるか、残業手当はきちんとでるかなどの具体的な質問を聞く機会となったようです。町の紹介や街の環境を見てもらい最後のいちご狩は今年も大変好評でした。参加のきっかけとして説明会やHPの他、学校の紹介があり事前のPRが届いたことをうれしく思いました。見学会を通して多くの職員との交流と当院を知っていただくよい機会となり、興味・関心から就職希望につながることを期待しています。



(副看護部長 戸田 久美子)



車中にて



語る会



町の説明

高速アプリケーションを備えた新 MRI 装置

2019年4月15日より新しいMRI装置（GE社製：SIGNATM Artist 1.5T）が稼働しました。この新しい装置は、臨床の装置では、宮城県で初めての導入となる圧縮センシング法を用いた新たなソフトが入ります。このソフトを用いることによりこれまでよりも高速で高分解能な画像が撮像できるようになり、脳の血管を「より細かく」「より早く」撮像することができます。特に、当院の脳外科や脳神経内科領域で、この装置の特徴を生かすことができます。「より細かく」「より早く」という点では整形領域でもこの装置の力が発揮されるようになります。



また、その他各種部位でも新しいアプリケーションを生かし、これまでよりも「より多様な」検査を行うことが可能となり、循環器系の検査も短時間で造影剤を用いることなく心臓や血管の検査を行うことが出来るようになりました。さらに、腹部領域では、様々なコントラストの画像が息止めで行えるようになり検査の質の向上が期待できます。

当院では、この新しい装置とともに、MRI 専門技術者認定を取得した診療放射線技師が撮像しており、最新の情報と技術を習得し、安全で最善な画像を提供できることを目指しております。また、地域連携でも迅速な対応をしておりますので、ご利用いただければと存じます。

(副診療放射線技師長 立石 敏樹)

一日消防署長



平成31年3月1日（金）に看護師の幸坂 滯さんが春季火災予防運動の一環として亘理消防署の一日消防署長を務めました。亘理消防署にて署業務の概要説明や車両点検を行ったあと、宮城病院にて病棟の消防設備の確認等を行いました。病棟の巡視では山元町のキャラクターのホッキーくん、亘理町のキャラクターのわたりんとともに職員や患者さんへ火災予防を呼びかけました。

（管理課 貴嶋 未弥）



新採用者研修



平成31年度4月1日、新採用者33名（内、看護師21名）が新たに宮城病院の仲間入りをしました。

「国立病院機構の概要」・「看護部概要」・「宮城病院の医療について」などの研修をみな真剣に受講し、宮城病院の職員としてのスタートをきりました。

私も今年度より教育担当看護師長に任命され、初々しい新人看護師の笑顔に力をもらっています。看護部の理念は「優しさと思いやりで信頼される看護」です。患者さんのよりよい生活に繋がる看護が看護師の喜びであると実感できるよう教育担当師長として共に学び、一緒に成長していきたいと思います。

様々な研修を通して、私が新人看護師たちに力をもらったように、患者さんやご家族の笑顔が看護師たちの力となり、看護部の理念を実践する人財になるよう期待しています！



（教育担当師長 内海 麻耶）

中央1・2病棟 バスハイク



今年度の第一回目となるバスハイクは、亘理町にある「亘理公園」へお花見に行きました。

当日は晴天に恵まれ、この暖かさに桜は開花し、花壇にはパンジーの花が満開で、ぽかぽか陽気が絶好のお散歩日和でした。参加した利用者さんも心

地よい風や花の香りを感じ、笑顔も多く見られ、またご家族からは「ゆっくりとした時間を過ごすことができた」とのお言葉を頂き、とても充実した時間を過ごすことが出来ました。



今年度は「うみの杜水族館」や「ひつじ村」など、様々な場所へのバスハイクを予定しておりますので、楽しみにしててください！
(保育士 齊藤菜名)

「せんこくん」って知っていますか？

宮城県山元町高瀬地区に所在する「合戦原（かつせんはら）遺跡」の発掘調査（※1）で発見された飛鳥時代頃の横穴墓（よこあなぼ／おうけつぼ）と呼ばれるお墓の壁画に描かれていた「線刻壁画（せんこくへきが）」のモチーフをもとに山元町がデザインしたキャラクターです。宮城病院の地名は「合戦原100番地」ですが、この遺跡は病院のすぐ近くで発見されたもので歴史のロマンを感じます。

※1 合戦原遺跡の発掘調査は平成26年～平成28年に山元町教育委員会が主体となり実施しました。調査要因は、平成23年3月11日に発生した東日本大震災の復興事業に関連する集団移転に伴うものです。



(事務部長 宗像 広)

宮城病院は今年で創立80周年

当院は、昭和14年2月に傷痍軍人宮城療養所として創設され、昭和20年12月に厚生省に移管、国立宮城療養所として発足し、平成16年からは現在の独立行政法人国立病院機構宮城病院としてお陰様で今年で創立80周年を迎えます。

山元町のこの地で長年医療を継続し、今後も地域医療に貢献してまいります。80周年を記念し下記の記念行事を開催いたします。

独立行政法人国立病院機構宮城病院創立50周年記念式典
平成31年10月19日（土）13時00分～
つばめの杜ひだまりホール（亘理郡山本町つばめの杜1丁目8）
記念講演・記念祝賀会・記念コンサートも予定しております。

診療科		曜日	月	火	水	木	金
脳神経内科 (新患は予約制)	新患		久永 欣哉	中屋亮彦 / 松本有史	久永 欣哉	金子 仁彦	中屋亮彦/金子仁彦
	再来		永野 功	久永 欣哉	金子 仁彦	久永 欣哉	久永 欣哉
内科			清野 仁	清野 仁	伊藤 博明	清野 仁	清野 仁
			志澤 聡一郎	志澤 聡一郎	志澤 聡一郎	志澤 聡一郎	志澤 聡一郎
				齊藤 秀行	齊藤 秀行		東北大学病院から
循環器内科	午前			東北大学病院から			
	午後		東北大学病院から (検査日)				
呼吸器内科					相澤 洋之		
消化器内科	午後			県立がんセンターから (13:30~15:30) 第2・4週(木を基準)	県立がんセンターから (検査日) 第2・4週(木を基準)		
アレルギー科	午前		堀川 雅浩		堀川 雅浩		堀川 雅浩
小児科	午前		堀川 雅浩		堀川 雅浩		堀川 雅浩
			東北大学病院から		東北大学病院から		東北大学病院から
整形外科	午後					県立がんセンターから (13:30~15:30)	
形成外科	午後					澤村 武 玉懸 美菜実 (隔週交替 13:30~15:30)	
皮膚科						東北大学病院から	
脳神経外科			永松 謙一	安藤 肇史	仁村 太郎	(手術日)	安藤 肇史
			(仁村 太郎)				永松 謙一
歯科			中原 寛子	中原 寛子	中原 寛子	中原 寛子	中原 寛子
専門外来	パーキンソン病外来		脳神経内科外来にて随時受け付け				
	頭痛外来		脳神経内科外来にて随時受け付け				
	もの忘れ外来		脳神経内科外来にて随時受け付け				
	ALS外来		脳神経内科外来にて随時受け付け				
	糖尿病外来					東北大学病院から	
	禁煙外来	午後					山本 蒔子 (第2・4週)
	女性外来	午後					山本 蒔子 (第2・4週)
	漢方外来		志澤 聡一郎				志澤 聡一郎
	入れ歯外来					伊藤 秀美	伊藤 秀美

受診される方へ

- ①受付時間は8:30~11:00です。
- ②土曜日・日曜日・祝日・休日及び年末年始(12月29日~1月3日)は休診です。
ただし、**急患の方は随時受付いたします。**
お問い合わせ先 0223-37-1131
- ③初めて当院を受診される方は、他の医療機関からの紹介状をお持ちください。紹介状がなくとも受診はできますが、その場合初診時に**2,700円を負担**していただくことになりますので予めご了承願います。

交通のご案内

●自動車でおいでの方●

■仙台方面から■

仙台市中心部から南へ約40km、国道4号線と6号線の分岐点から南へ約20km、国道6号線314.5kmポイント(標識)が目印です。
高速道路ご利用の場合、常磐自動車道山元ICで降り、国道6号線を相馬方面へ南下。山元ICから約5km。

■相馬方面から■

国道6号線を仙台方面に向かい、宮城・福島県境から約10分です。

●交通機関をご利用の方●

■仙台方面から

JR常磐線亙理駅下車、タクシーまたはJR代行バス(詳しくはお問い合わせください。)

